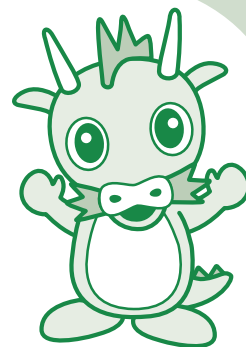


鐘の音

～かねのね～



vol.49
2023.3 発行



大宮の古い地名「鐘塚」。そこに建てられた「パートナーシップさいたま」から男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、そんな願いを込めて名づけました。

令和5年度講座のご案内

※令和5年1月時点の予定です。

さいたま市議会2月定例会において、令和5年度予算の承認を得られましたら詳細を決定いたします。講座の詳細は決定次第、市報・チラシ・HP等で周知いたします。また、新型コロナウイルスの影響により変更となる可能性がございます。最新情報は、さいたま市HPで検索いただけますようお願い申し上げます。

男女共同参画週間記念事業

内閣府では、男女共同参画社会の形成の促進を図るため、毎年6月23日～29日を「男女共同参画週間」としています。この「男女共同参画週間」にちなみ、講座を実施する予定です。

性暴力防止 セミナー

埼玉県と共催で性暴力の防止をテーマとした講座を実施する予定です。

DV防止セミナー

内閣府では、毎年11月12日～25日を「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間としています。この運動にちなみ、DV防止セミナーを実施する予定です。

国際男性デー記念講座

国際男性デー趣旨である「男性・男児の健康に目を向け、ジェンダー平等を促す」に沿って、男性の生きづらさに目を向け、男性相談に焦点を当てた講座を実施する予定です。

この他にも、
講座、ワークショップを
予定しています！



○出前講座 専門の講師を派遣します

ジェンダー平等出前講座

さいたま市内の学校・事業所、団体等へ、テーマごとに専門の講師をコーディネートします(講師料はさいたま市が負担)。オンラインでの講座にも対応いたします。詳細はパートナーシップさいたまへお問い合わせください。

パートナーシップさいたまからののお知らせ

第2回
パートナーシップさいたまフェスタ

「ジェンダー平等を
実現しよう」

【開催期間】令和5年1月24日(火)～2月23日(祝・木) 【参加費無料】オンライン開催
【基調講演】動画配信 (基調講演には日本語字幕が付きまます。)



講師
サンドラ・ヘフェリンさん
(コソボ)

「ジェンダー平等に
たどりつけない日本
その理由を考えてみた」



講師
浅沼 智也さん
(弁護士、映画監督)

「I Am Here
-私たちはともに
生きている-」

【特別プロフィール】
サンドラ・ヘフェリンさんは、移住後24年、日本製のドイツ製
の高級家具を、独自のデザインで作り出す「家具の職人」
として、世界中に活躍されています。移住に「女性が一人な
らなくていいから」という思いで移住された。移住後、夫は
「I Am Here」(I Am Here)という映画を制作し、世界中に
公開されています。2020年、映画「I Am Here」が
「I Am Here」(I Am Here)という映画を制作し、世界中に
公開されています。2020年、映画「I Am Here」が

【特別プロフィール】
浅沼 智也さんは、映画監督、映画プロデューサー、映画
編集者として活躍されています。代表作に「I Am Here」
(I Am Here)という映画を制作し、世界中に公開されて
います。2020年、映画「I Am Here」が

【参加方法】
特設サイトにてオンライン開催。参加にはお申し込みが必要です。
現在お申し込み受付中です。
令和5年2月20日まで、「第2回パートナーシップさいたま
フェスタ」参加お申込みホームページにて受付中。
<https://www.city.saitama.jp/006/010/002/0010/011/p093076.html>

主催：さいたま市男女共同参画推進センター
(運営：パートナーシップさいたま)

令和5年1月24日(火)～2月23日(祝・木)に、第2回パートナーシップさいたまフェスタをオンラインで開催しました。

「基調講演」動画配信

- 講師 サンドラ・ヘフェリンさん(エッセイスト)
「ジェンダー平等にたどりつけない日本
その理由を考えてみた」
- 講師 浅沼 智也さん(弁護士、映画監督)
「I Am Here -私たちはともに生きている-」

その他にも、
公募による出展団体プログラム、
令和4年度オンライン講座プレイバック、
男女共同参画推進に関する取組紹介等、
多くのコンテンツを公開しました。

セミナーレポート

パートナーシップさいたまで実施した
セミナーをご報告します。

ママが元気になるジェンダー平等講座 第2回目

子育て中「心の落とし穴」から抜け出す術

講師：まりろ^{もりろ}/森實^{もりざね} 摩利子^{まりこ} 氏
(絵本セラピスト/こころとからの発達相談塾いところ)

まず初めに講師の自己紹介がありました。

「高知市に住んでいます。夫の転勤でさいたま市に3年間住んだご縁でお話させていただくことになりました。お仕事は障害者の暮らしの支援・スクールカウンセラー・専門学校講師など。資格は公認心理師・絵本セラピシー・絵本専門家幅広く活動しています。毎日の子育てで苦労様です。落とし穴にはまるのは頑張っている証拠、子育ては悩み続けるものかもしれません。こうすれば「バッチリ解決!」というものではなく「知っておく」ことをお話しします。」

とはじまり、いくつかの落とし穴について説明してくださいました。1つを紹介いたします。

「確認バイアスの落とし穴」

確認バイアスとは自分に都合のいい情報だけを無意識に集めてしまふ、その結果思い込みがより強固になり偏った判断をしてしまうことです。バイアスは過去の経験で判断しています。例えば出産祝いに男の子だから青いもの、女の子だったら赤やピンクと、思い込みで判断してしまいます。ジェンダーバイアスの「男は強く女は優しく」と強い思い込みがあります。

1人ひとりの個性を大切に自分で選ぶ・自分で決める・自分で判断する人になってほしいです。生きることは選択と決断の連続です。例えば朝起きたら何を食べよう、何着て行こうと考えます。自分の良いところも悪いところも好きになって自分を大切にしてください。

「子育てママに送る言葉」

こどもMINKATA
昨日のあなたと今日のあなた
昨日の私と今日の私
MINKATA 見方を変えると味方になる

お話を聞いて、昔も今も子育てが大変なのは変わらないのはなぜなのか、考えさせられました。「頭の中だけで考えたり情報に頼ったりするのではなく、実際のあるもの、今ここが幸せであり『今、ここ』を大切にしてほしい」と話されていました。絵本セラピストとしてナンシー・カールソンの絵本「わたしとなかよし」を読んでくださり、幸せな気持ちになりました。

(武田礼子)

セミナーレポート

パートナーシップさいたまで実施したセミナーをご報告します。

国際男性デー記念講座

『男性は何をどう悩むのか』

講師: 福島 充人 氏

(一般社団法人日本男性相談フォーラム代表理事/臨床心理士)



『男性は何をどう悩むのか』

濱田智崇 著
(2018年3月刊行 ミネルヴァ書房)

講座を聞いてわかったことを、書きました。

男性は「男だから〜するべき」という「男らしさの鎧」に悩まされています。男は人前で泣かない、男が家を継ぐ、デート代は男が出すなど今までの日本で理想とされている男性像に悩まされているのです。男らしさの鎧は悪いことばかりではありません。それを良いように働かせて頑張れるという男性もいます。しかし悪い方に働くとDV、セクハラ、パワハラ、虐待に走ってしまいます。男性は自分の感情を表現しにくい傾向にあります。なのでDVなどの暴力暴言に走ってしまいがちです。その裏には寂しさ、不安が隠れていることがしばしばあります。例えば、仕事から帰宅して食事がまだ出ていないときに、「何で無いの!」と強い口調で言ってしまう。男性は「男だから〜せねばならぬ」という男の鎧を脱いで、自分も周りの人たちが楽に生きられるようにしてみることが大切です。そのために男性は何をすることが良いでしょうか。まず、身近な人とのコミュニケーションをとることです。家族、職場の仲間、友達と何気ない会話から始めることです。深刻な話も話のオチもいりません。親しくしたいと思うことです。心が傷ついて怒りを表しそうになったら直ぐにその場を離れればいいのです。

その他には公的電話相談・面談相談です。男性は男らしさの鎧のせいで誰かに相談をすることはハードルが高いと感じています。ハードルを越えて相談した結果、指示や拒絶されると、相談すると叱られるという悲しい思いを抱いてしまいます。「男」悩みのホットライン男性相談では男性の相談をとにかく「受け止める」ことをしています。匿名で話しやすいので、ぜひご利用ください。

受講して、私は今まで父や祖父の悩みを考えたことがなかったなと気づきました。今よりもさらに「男らしく」と言われていた世代なので、より悩みが深かったらと思う思います。

(O.しほ)

メディア・リテラシー講座

『失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック』ができるまで

講師: 吉永 磨美 氏

(前 日本新聞労働組合連合・中央執行委員長)



『失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック』

新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム 著
(2022年3月刊行 小学館)

新聞社での実際の事例を元に出版された『ジェンダー表現ガイドブック』の編集チームの一員である吉永磨美さんに、メディアの中で日々使われている表現についてお話を伺いました。

私たちの日常にジェンダー不平等な表現は多く潜んでいるが、伝統的な家父長制に支配された表現や無意識の偏見の刷り込みから「そういうものか」と、内面化した男尊女卑によって見過ごしてしまっている。例えば、男性が女性よりも知識豊富というわけでもないのに、男性がメインキャスターで女性はアシスタントであったり、報道内容で「女性【でも】安心」などの言葉が使われたりする。時には「イクメン」や「家事と仕事の両立する女性」を素晴らしいと評価した特集など、男女に差がないはずのことも、言葉や表現で男女の役割を無意識的に決めつけてしまっている。こういった性差別は、女性のか弱さを当たり前にして女性の活躍の場は男性とは異なることを暗に示すと同時に、男性の生きづらさも加速させ、「男だから〜あるべき」と縛っている点も問題である。このような偏見に基づいた報道によって創り上げられた声を上げにくい複雑な社会で、私たちはイメージによる「常識」をアップデートするための第一歩を踏み出す必要がある。そのためにまずは、当たり前を疑うこと思い込みに気がつき、それを家族や職場で共有をして、「自覚の種まき」を行うことが重要である。

私は、高校では野球部に女子マネージャーとして所属していました。とある遠征先で、女子マネージャーがいる学校が羨ましいと言われたことがあります。しかし、今思えばきっとこれは、マネージャーがいることによる活動の効率の良さではなく、女子マネージャーがいることによる華やかさを求めていたから出た言葉だったのかもしれないし、そもそもこの、「女子【マネージャー】」という表記すらジェンダー表現なのかもしれない。今回のメディア・リテラシー講座を通して、今まで鵜呑みにしていたが、こんなにもかと思っただけ、私たちの生活の中にジェンダーの不平等が溢れかえっていることに気がつきました。それで嫌な気持ちになるかもしれないけれど、目をそらさずに多くの人が向き合っていくことで時代にあった価値観をもつ社会が生成されるのではないかと考えさせられました。

(たけなまきあやか)

相談のご案内

●相談は無料です。●秘密は厳守します。

●女性の悩み電話相談

女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

子ども家庭総合センター
男女共同参画相談室 ☎048-711-6650
月～金／10:00～20:00 土・日・祝／10:00～16:00
(年末年始を除く)

浦和区役所 女性の相談室 ☎048-829-6129
月・火・水・金／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

中央区役所 女性の相談室 ☎048-840-6132
火・金／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

岩槻区役所 女性の相談室 ☎048-790-0158
月・水／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

●男性の悩み電話相談

男性の生き方、仕事、家庭、夫婦、人間関係などの相談に応じます。

男女共同参画相談室 ☎048-711-6101
第2・第4日曜日／13:00～16:00

●女性のDV電話相談

☎048-762-3880
月～金／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

●女性のための法律相談(予約制)

女性の弁護士が相談に応じます。

実施場所 パートナーシップさいたま
予約電話☎048-642-8107

実施日時 第2水曜日／13:00～15:30(30分単位)

実施場所 男女共同参画相談室
予約電話☎048-711-5739

実施日時 第1・第3火曜日／13:00～15:30(30分単位)

●男性のための法律相談(予約制)

弁護士が相談に応じます。

実施場所 パートナーシップさいたま
予約電話☎048-642-8107

実施日時 令和5年4月より相談日時が変更となる予定です。最新の情報はHPをご確認ください。

●女性のための心の健康相談(予約制)

専門の女性の医師が相談に応じます。

実施場所 男女共同参画相談室
予約電話☎048-711-5739

実施日時 第4火曜日／13:30～16:15(45分単位)



HPはコチラ▶

〈編集後記〉

みなさんは11月8日の皆既月食をご覧になりましたか。私は観ていません。月全体が暗いオレンジ色に変わり、また黄金に輝く月が表れてきました。442年ぶりの天体ショーに心奪われ、日頃の悩み事を忘れられる一時でした。

(O.しほ)



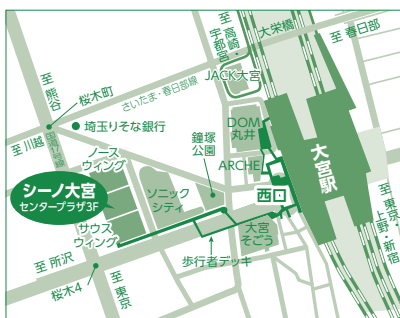
在宅ワークを活用する企業が増えていますが、インターネット先で話を聞くと、「ゆっくり起きられる」とニコニコ話している男性社員がいたり、「家事・育児に充てられる時間が増えて働きやすい」と話す女性社員がいたり。まだまだ女性自身が家事・育児に対して責任をたくさん感じているように感じる毎日です。

(わたさきあやか)



高齢者の仲間入りをしたと思ったらアレ?あっちが痛い、見えにくい...などと毎日が大変です。スケジュールの管理も頭の中でできていたのが、今日は何があった...ない?と確認をしながらの生活が面倒になっていきます。でもまだ体は動くしちょっと?迷惑をかけていると思いますが、私なりにできることを活動していきたいと思っています。

(武田礼子)



JR大宮駅西口 徒歩8分

自転車でお越しの場合、シーノ大宮駐輪場が無料でご利用になれます。



さいたま市

広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。

郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままでお願いします。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.49 2023年3月1日

〈編集・発行〉

さいたま市男女共同参画推進センター(愛称:パートナーシップさいたま)

編集員/O.しほ、ささきあやか、武田礼子

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センタープラザ3階

電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801

E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

◆ホームページもご覧ください◆

パートナーシップさいたま

検索

10・3月発行(年2回)

この広報誌は42,000部作成し、1部当たりの印刷経費は10円です。

